

登録コード	F3D54140	開講年度	2026				
授業科目	論文講読・プレゼンテーション演習					担当教員	山本 博規 他
英文授業名	Seminar for Scientific Communication					副担当	
単位数	4	講義期間	通年(集中)	曜日・時限	集中・不定期	対象学生	応用生物科学科 4 年
講義室				授業形態	演習	遠隔授業科目	
						備考	
信大コンピテンシー	非該当						
(1)授業の達成目標	授業で得られる「学位授与の方針」要素				【授業の達成目標】		
	2 4 Fカリ・応用生物, 2 3 Fカリ・応用生物, 2 2 Fカリ						
	実験事実に基づいて客観的・論理的に考える能力				公表された論文の内容の理解を試みることで、実験データを得るための手法やその結果を客観的に把握する力を養う。		
	生物科学の応用に際して直面する課題を理解し、自立して問題解決の方法を探す能力				生物学の基礎データをもとに、その知識と技術を応用展開するための思考力を養う。		
	自分の考えを伝え、チームとして行動できるコミュニケーション能力				学術論文を読み込み、内容をまとめて発表するという経験を通じて、自分の考えをチームの中で活かし、問題を解決すべく進んでいくことができるようになる。		
(2)授業で学べる「テーマ」	その他						
(3)全学横断特別教育プログラム							
(4)授業の概要	指導教員の指示に従うこと。						
(5)授業計画	研究室毎に実施日時が違うので、指導教員の指示に従うこと。						
(6)成績評価の方法	指導教員が論文の理解度、プレゼンテーション力を総合的に判断して評価する。						
(7)成績評価の基準	研究室毎に論文等がことなるので、それに従って達成目標も異なるので、指導教員の判断が優先される。 秀： 授業の達成目標の水準から見て卓越している 優： 授業の達成目標の水準よりかなり上にある 良： 授業の達成目標の水準よりやや上にある 可： 授業の達成目標の水準にある 不可（D）： 授業の達成目標の水準よりやや下にある 不可（F）： 授業の達成目標の水準にない						
(8)事前事後学習の内容	論文の十分な読み込みと発表のための準備を行うこと。 論文の難易度で事前学習時間は人それぞれである。						
(9)履修上の注意	基本、研究室単位で行われるが、欠席や発表のすっぱかしはあってはならない。						
(10)質問,相談への対応	難解な部分、筋道だって理解できないところは研究室の修士の先輩はもとより、指導教員に質問すること。						
(11)学生へのメッセージ	特になし。						
(12)その他	特になし。						
【教科書】	教科書はない。 論文を指導教員が渡す場合と自分で探す場合があるが、指導教員の指示に従うこと。						
【参考書】	なし。						